きもの文化に学ぶ環境配慮衣生活の教育プログラム

○大矢幸江（東京学芸大学大学院生）
薩本弥生（横浜国立大学）

抄録：**目的**　家庭科の衣生活分野の学習では、「衣服と社会生活のかかわり」を理解させることが目標として挙げられている。これまで、衣文化への関心を持たせる学習において、きもの文化を取り上げ、ゆかたの着装を含む授業実践を行ってきた。本研究では、きもの文化の学習（きもの単元）と環境共生型の衣生活の単元（環境単元）の共通する部分を接続する教育プログラムを考案、実践し、そのことで、２つの授業内容への興味関心、理解に効果があるかを検証し明らかにすることを目的とする。

方法　平成 27 年 7 月に、私立男子高校 3 年生 268 名を対象にゆかたの着装を含む授業実践を実施した。環境単元の最初に、きもの単元の振り返りとして、過去の日本人の衣生活が、もったいない精神をベースに循環型のシステムを構築していたことを学ばせた。環境単元では生徒主体となる授業として「制服の一生」すごろくを用い、現代の衣生活の問題点を考えさせた。これらの単元を接続する授業の効果を検証するために、きもの単元のゆかた着装授業の直後と 1 か月後、環境単元の授業直後にアンケート調査を実施した。

結果　ゆかた着装直後に高まったきもの文化への興味関心が、1 か月後には低下したが、環境単元の最初にきもの単元を復習したことにより、きもの文化への興味関心が喚起された。興味関心が高まった生徒は、環境配慮への意識・意欲も高い傾向が見られた。環境配慮への意識・意欲はあっても、実生活への行動には繋がっていない実態も明らかとなった。